

第三回外部レビュー委員会における指摘と対応

検討項目	指摘	対応(案)
利害関係者意見聴取の結果	<p>マサバ太平洋系群に修正箇所あり</p> <p>意見集約5番目「消費者にどう理解してもらおうかの観点」をしっかりと検討いただきたい。特に重要な点は、「誰も魚を食べなくなったら、漁業は成り立たなくなる。」と言う視点からストーリーをきちんと描いてみせることだと考える。</p> <p>シーフードウォッチについて、注釈が欲しい。</p>	<p>手順書改訂版での加筆を忘れないようにしたい</p>
パブコメについて	<p>パブリックコメントの周知が徹底していない。意見がないと言うことはアウトリーチが足りないことを意味している。パブコメなしは及第点ではないので、どうやったらパブコメをとれるのか改善する必要あり。</p>	<p>パブコメ実施について周知したうえで、再度パブコメを実施した。</p>
評価報告書草案：ブリ（天然）	<p>末尾「指標のまとめ」の「資源の状態」でまき網と定置網で点数が違うところがある。二つの漁法があるときには比較表が必要〔青木委員〕</p> <p>「海底環境への影響」について、着底漁具でないものはNAではなく高評価を与えるという考えで良いのではないのか？</p> <p>「まとめ」がまき網と定置網に分かれているのはなぜか？</p> <p>重み付けの説明がほしい。表の各項目について説明がほしい。</p> <p>「資源の状態」も漁獲圧の強さなど漁業ごとに分けているのか？ 2つの漁業があるときに漁業の重みをどうするかは議論の必要がある〔青木委員〕</p>	<p>「資源の状態」は漁業によらず同じ結果になるはずなので訂正する。比較表についても準備するようにする。</p> <p>評価できるものはNAを避けるように対応するとともに、評価手順を再考していきたい</p> <p>「生態系への配慮」などは漁業の生態系へのインパクトを評価しているので漁業ごとの評価になる。</p> <p>重み付けは、現在ではほとんど意味の無い項目となっている。評価点の付け方を加筆する中で対応していきたい。</p> <p>「資源の状態」では漁獲圧の強さなどは評価単位全体に対するものをみている。漁業毎に採点して、漁獲量で重み付けするということを考えていたが、明文化されていない。</p>
評価報告書草案：ウルメイワシ	<p>財政状況の箇所など、県に関わる場所は、県へヒアリングをしてお話があったが、分けてコメントしているのか。</p> <p>各項目に対して、「最近年を使用する」や「直近〇年度分を使用する」といったように、ルールをあてはめていった方が今後の作業としてわかりやすいのではないのか。</p> <p>貿易の機会などは、法律によって変わってくることが多いだろう。もし、法律等が変わった場合でも、1年に1回の更新時に変更するのか、随時適用していくのか。何かしらの基準を明確に示していただけると、評価手順書が見やすくなると感じた。</p> <p>P12：1.3.3.5「漁業管理方策への…」がNAになっているが、評価結果については、影響はほとんどないということ点数として評価された方がいいだろう。P37：2.3.3「海底環境への影響」もNAであるが、ここもしっかり評価に組み込まれた方がよいだろう。なるべくすべてについて、想定される点数をつける方がよいだろう。</p> <p>P53：4.2.2.2「利用形態」についてだが、ウルメイワシというのは、消費者にとっては、加工食品というイメージが非常に強い。利用形態の評価基準によると、加工食品は3点と評価が生鮮より下がってしまっている。これは、どのような意味があるのか。むしろ、生鮮でも加工でも食べられる、利用価値の幅が広いという捉え方もできるのではないのか。</p>	<p>会議の席では、「ウルメイワシの宮崎県という報告書を作る時には、宮崎県の事しか書かないということで対応していきたい。」と回答したが、実際に作業を行ってみると、報告書作成作業があまりにも煩雑となり、現時点で目標としている評価魚種の迅速な拡大と相反するため、当面は各県の状況がわかる記述を心がけつつ、一定の地域ブロックでの評価としたい</p> <p>文書作成に使用している資料は、Webあるいは文書での報告書を主に用いている。別途ヒアリングしてデータを集めていくことなどは考えていない</p> <p>手順書改訂版での加筆を忘れないようにしたい</p> <p>手順書改訂版での加筆を忘れないようにしたい</p> <p>評価できるものはNAを避けるように対応するとともに、評価手順を再考していきたい。</p> <p>高付加価値に対して、すべての魚種に評価をつけられるように設定した。手順書改訂版では、高付加価値と利用の幅という2項目に分けて評価することを検討していきたい。</p>

検討項目	指摘	対応(案)
	<p>P53 : 4.2.2.1「衛生管理」, クライテリアがない4点に点数がついているのはなぜか。このように, クライテリアがないところに点数がついているのは不思議に感じる。</p> <p>この評価の手法を使って, 実際に評価を回される際には, どの人が評価をしてもある程度, 一貫性のある評価結果になることが, このようなもののスタンダードには重要かと思うので, しっかりご議論いただきたい。</p>	<p>点数のつけ方は, 手順書の改訂過程でしっかり対応していきたい。</p> <p>ご指摘いただいた点は, 手順書の改訂過程でしっかり対応していきたい。</p>
評価報告書草案 : イカナゴ	<p>P13 : 1.3.3.5「…IUU漁業などの考慮」, P35 : 2.3.3「海底環境への影響」, 今, 世界的に漁業に注目しているNGOのなかでは, 海底環境への関心が比較的高い。例えば, 底引き網漁業でも, MSC認証をとっているものがあるときには, どうやってハビタットの保全を担保しているのかなどをかなり細かくみられてきている。なので, 海底環境への影響がないのならないと, NAではなく評価すべきだろう。</p> <p>P45 : 3.3.2.3「幅広い利害関係者の参画」, ここはNAになっているが, 内容を確認すると5点を与えてもよいのではないかと思う。</p> <p>P9下から4行目, この「B_{limit}」の意味がよくわからなかった。これから英訳を視野に入れた場合, 専門用語をしっかりと定義しておく必要があるだろう。</p> <p>イカナゴの資源状態がブリやウルメより低いのは, 資源状態が効いているからか? 漁業の管理や地域の持続性はほぼ満点に近い, これをどのように考えるのかかが課題でもあるだろう。</p> <p>P41 : 3.1.3.1「…特筆される」を点数判断に引用されるには, 客観性に欠けるのではないか。この部分を加味して, 4点を5点にあげたのかどうか確認させていただきたい。記述に思いがのりすぎている部分が散見される。</p>	<p>評価できるものはNAを避けるように対応するとともに, 評価手順を再考していきたい</p> <p>ご指摘に従い, 評価を改訂した。</p> <p>手順書改訂版での加筆を忘れないようにしたい</p> <p>評価魚種数がある程度増えた段階で, 各項目の重み分析を行う必要があると考えている</p> <p>根拠文書に当たると共に, 利害関係者からの意見聴取結果を踏まえて検討した結果, 評価点はそのままとした。</p>
HPおよびスマホアプリ	<p>ただ公開しただけでは, なかなか広まらないと思う。どうやって活用してもらうかを考えなければいけないと思っている。主婦にはお買い得情報など, 購買行動につながるような情報があると活用する人が増えると思う。アプリ公開しましたということにプラスしてワンクッション必要だと思う。サプライヤーの方々によく知ってもらって, 活用してもらい, そこから消費者に広がっていくと思う。また, 売り場でもPOPとして, この情報を活用してもらうなど工夫が必要ではないか。</p> <p>HPの方は, 詳細な情報が記載されていて参考になると思うが, 一般には理解しにくい点も多いと思う。そこで, 例えば, 自治体が出前授業をやっているのだから, 自治体と連携して, 学校などでそのHPをみながら講義していただくのはどうか。横浜市中央卸売市場では, 市場の方が出前授業を行っている。このように活用法の部分も同時に考えられるとより広まるのではないか。</p> <p>評価書そのものは紙, Webもあるけれど, あまり積極的には見られないだろう。生産者や消費者に有効な情報を与えて, 生産活動および消費活動を通して持続可能性につなげていくことを考えていくならば, そのインターフェースが考えなければ, 普通の論文と同じ論文書いて終わってしまうようなもの。ここが一番重要。</p>	<p>まず使いやすくすることを第一と考えて改修を行った。改修の結果概ね問題は解決したと考えられるので, 今後は機会を捉えてPRに勤めていきたい。</p> <p>スマホアプリの改修の後に種類数がある程度増えていく中で, 対応の機会を増やしていきたいと考えている。</p> <p>大変重要な点だと認識しており, 今後とも検討していきたい。</p>

検討項目	指摘	対応(案)
	<p>アプリをダウンロードする方は、安い魚が食べたい人ではないだろう。どこの層を目指すかが重要になってくる。UIの話を出すと細かい修正部分はたくさんあると思う。「あなたのFish points」は、このアプリの肝になってくると思う。けれども、Fish pointsって何かいまちよくわからない。画面遷移のTopの画面にくるものは、特にわかりやすい言葉で表現することが大事。Top画面の初見でわかりにくいものは、Fish pointsだと思う。サステイナブルな部分に貢献できているという貢献度を示す言葉だとしたら、そこが、おそらくこのアプリを継続して使用する肝になっていくと思う。なので、その言葉をわかりやすく表現してほしい。</p>	<p>次回のスマホアプリ改定の際に検討していきたい。</p>
	<p>Fish pointsがある程度たまったら、何かもらえるの？何かインセンティブが欲しいところ。</p>	<p>グッズ開発と併せて検討していきたい。</p>
	<p>結果をSNSなどで投稿できると、ポイント自慢として面白いのではないか。</p>	<p>次回のスマホアプリ改定の際に検討していきたい。</p>